

第2回静岡市文化振興審議会 議事録

日時 : 令和7年8月26 日(火)14:00～16:00

会場 : B-nest 静岡市産学交流センター 7階 会議室1

出席者:委員:別添名簿のとおり

文化政策課 : 望月課長、後藤課長補佐兼交流推進係長、三浦参事兼芹沢銑介美術館長、
多々良主幹兼まちは劇場推進係長、野末施設係長、石川文化振興係長
福原主査、伊藤主任主事、松井主事
(公財)静岡市文化振興財団:村松主事

【議題】

静岡市文化振興計画 前期実施計画 令和6年度事業実施評価 総括書について

【記録】

	内容	
14:00	開会	石川係長
14:05	会長 挨拶	平野会長
14:25	議事録署名人1名:佐々木副会長 【議題】 静岡市文化振興計画 前期実施計画 令和6年度事業実施評価 総括書について 資料読み上げ 資料1 ・委員から提出された意見照会書の意見をもとに作成 ・類似する意見や同一事業における複数意見は1つにまとめている ・記載に関する補足について ●文化がはぐくむ人づくり ●改善すべき点・今後の事業に期待すること 2項目 「静岡市お茶の学校…」から始まる文章の記載について →当該事業は、事業見直しにより令和7年度から実施の予定がない事業となるが、文化資源・地域資源を活かした人材育成事業の代表的事業であるため、1つの例として事業名を残して記載している。	平野会長 福原主査
14:30	質疑 ●文化でにぎわうまちづくり ●評価できる点 2項目 →中勤助文学記念館と芹沢銑介美術館の内容について 静岡市における中勤助の文学的・歴史的意味について、これまでその評価が固定されたものとして継続してきたが、見直しが必要な時期に来ているのではないかと。中勤助の確立された評価を守っていくだけの取り組みであると、今後広がりを持てないのではないかと。	久保田委員

●中勤助文学記念館自体は、そこでイベントを企画したり、焼津小泉八雲記念館などと連携をして回遊できるイベントを企画するなど様々な試みはしている。 ●毎年秋に中勤助文学記念館／芹沢銈介美術館／藤枝市の郷土博物館・文学館／焼津市の小泉八雲記念館の4館連携で事業を実施したり、令和7年度は開館30周年を記念した記念講演を企画するなど特に力を入れて取り組んでいる。 ●中勤助文学記念館に保管されている資料を求めて中勤助を研究している大学教授等が毎年訪問し、大学の講義の中で扱っている実績もある。また、地元の服織中学校の校歌を作詞したという実績があるため、服織学区の小中学生が年1回程度ではあるが、学区探検の際に訪問している。30周年記念事業を契機に「訪問しやすい文学記念館」としての取り組みを強化していく。 ●観光の視点を入れてブラッシュアップしていくことも大事。記念館の横に流行りのカフェを併設するだけで変わってくる。個人の業績に頼って事業を継続していくよりは、立地や建物自体を楽しんでもらえるような発想の転換が必要。 ●令和7年度の企画としては、「薬科で生まれた詩」や中勤助自身が羽鳥に疎開中に詩や短歌を書き始めたということで、そこで生まれた詩を地域の生涯学習センターと連携して題材にワークショップを開催するなどを検討している。 ●意見を踏まえて、中勤助文学記念館は改善すべき点に記載すべきか。 ●中勤助文学記念館に関する意見は、3名の委員から挙がっており、うち2名が評価できる点に記載していたため、評価できる点に記載している。 ●評価できる点と改善すべき点の両面の意見があるということなのであれば、どちらにも記載しておく必要がある。 対応 改善すべき点に関する意見を追記する。 ●中勤助文学記念館のチラシの構成やビジュアルデザインにおける評価だが、事業に関するチラシでどういうものがあつたか思い出せない。 ●講談やその時々で企画でチラシは作成している。スタンプラリーのチラシなどは静岡県立大学のゼミ生と連携をしデザインをしてもらうなどしている。 ●中勤助文学記念館での評価は、広報・広告の仕方という表現で評価されており、チラシの構成やビジュアルデザインという文言は芹沢銈介美術館での評価で使用されているため、意味が変わってしまわな	平野会長 望月課長 野末係長 久保田委員 (公財)静岡市文化振興財団 平野会長 福原主査 平野会長 成島委員 (公財)静岡市文化振興財団 望月課長
--	--

いよう文言を分けて表記するようにする。 対応 中勤助文学記念館と芹沢銈介美術館の評価できる点の表記をそれぞれ分けて記載する。 ●評価をする際に事業ごと予算額が記載されていると費用対効果の面からも評価しやすくなるのではないか。 対応 実施計画一覧表に予算額を記載する欄を追加する。 (令和7年度事業評価より) ●静岡市民文化会館再整備事業について 実施計画一覧表における評価が「評価対象外」であったため、意見照会書に意見を書けなかったが、休館中である今だから今後の事業に期待することに評価できるチャンスだったのではないか。 ●「評価対象外」というのは、実績評価に対して対象外という意味であるため、評価総括書に意見を記載すること自体には問題ない。 ●事業としては、令和6年度において事業は実施していないので、「評価対象外」という評価になるが、静岡市民文化会館は拠点になる施設であるため、どういう運営をしてほしいなど意見を書いてもらえれば、市として考えている方向性と照らし合わせ評価することもできる。 ●全体評価 ●②他事業・他分野との連携による二次的効果の創出 ●以下の表記について 【昨今、文化は単に鑑賞するものではなく、地域課題を解決するひとつのツールとして、地域の特性やアーティストの創造力を取り入れながら事業を展開していくことが期待されている。】 →ツールとして使えるか使えないかだけが価値ではない。そこは評価する際に間違えないよう気をつけたい。 ●【昨今、文化は単に鑑賞するものではなく、地域課題を解決するひとつのツールとして、地域の特性やアーティストの創造力を取り入れながら事業を展開していくこと“も”期待されている。】 と言い換えるのはどうか。 ●全体評価 ①と②を切り離して読むとバランスが悪いが、①には本質的な価値、②は本質的な価値を大切にした上で二次的効果という構成になっているので、全体評価としてはこのままの表記でもよいのではないか。 ●①と②を併せて読むと、基本的には本質的な価値を大切にする、加えて二次的な効果も見据えていくと読めるので、このままでもよい。 ●「文化は単に鑑賞するものではなく、地域課題を解決するひとつのツールとして」という表現が引っかかっている。現在の表記は、②の文	海野委員 海野委員 望月課長 野末係長 伊藤委員 平野会長 佐々木副会長 伊藤委員 成島委員
--	---

	頭に「その上で」という表記がないため、文化は「鑑賞するもの・されるもの」ではなく「地域課題を解決するツール」とであると読める。文化が「単に鑑賞するものだけではないこと」と「地域課題を解決するツール」という２次的効果の間にもう少し何かあるのではないかと。①を大前提に踏まえたその上でという表現がもう少し明確に分かった方がよいのではないかと。「文化は単に鑑賞するものではなく」という表現はあえて書く必要があるのかとも思う。 ●「文化は単に鑑賞するものではなく」という表現は、「地域課題を解決するツール」という表現に直接結びつくものではないので、各必要はない。それを踏まえて【本質的な価値に加えて、地域課題を解決するひとつのツールとして、地域の特性やアーティストの創造力を取り入れながら事業を展開していくことも期待されている。】としたらどうか。 ●①にも二次的効果の具体的な内容に踏み込んでいる表記がある。 ●文化庁の文化芸術推進基本計画(第1期計画)において、文化の本質的な価値／社会的価値／経済的価値を明示している。内容に正確さを持たせるのであれば、このような分類を参考にした方が間違いはない。 対応 意見を踏まえて①②の内容をもう一度整理する。 ●文化でつながるまちづくり ●改善すべき点・今後の事業に期待すること ●以下の表記について 【ストリートピアノは、公共空間への提供がメインとなっているが、「公園」や「屋外施設」のような「新しい楽しみ方」ができる設置場所やメーカーの プロモーションに繋がる常設の展示場所など変化に富んだ視点での展開を期待したい。また、保守の観点からグランドピアノのみならず音量の調節が可能な電子ピアノなど環境に柔軟に対応できる楽器の設置も検討していくことが望ましい。】 結論としての表記になっているが問題ないか。 対応 「設置を含め」に修正 ●ストリートピアノは、周りの人は本当に喜んでいるのか、疑問に思っている。調律もされていないピアノを放置しておくのが果たして「文化」と言えるのか。単なるファッション的な取り組みになっていないか。そういう観点からも電子ピアノという手段がある。 ●色々な考え方があるが、市としてはストリートピアノを置くことで、新たなコミュニティが生まれたり市民が自ら文化を発信していくことをイメージして実施している。周囲がどう思っているのかは、もう少しリサーチしないといけない。現状は、ストリートピアノを通じて人前で	伊藤委員 久保田委員 佐々木副会長 海野委員 久保田委員 多々良係長
--	---	---

	表現できることで、市民が喜びを感じていることに価値を置いて実施している。今後は YouTube や SNS を活用し、演奏者と双方向で発信していけるような仕組みも検討したい。	
16:00	事務連絡 閉会	石川係長

署名(会長) 佐々木雅幸

署名(委員) 平野雅幸

